

## ■ お手入れ方法

間違ってお手入れ方法や保管方法は本製品の寿命を縮めます。使用後や保管時は以下の点を参考にしてください。

- アウターボトル、インナープレス、キャップは、ぬるま湯と洗剤で手洗いしてください。
- 浄水カートリッジは洗剤で洗わないでください。
- 浄水カートリッジはきれいな水でよくすすぎ、タオルなどで拭いて、十分に乾燥させてください。
- 浄水カートリッジを完全に乾燥させるまでに最低 48 時間はかかります。
- 食器洗浄機は使用できません。

## ■ 保管方法

- 雨露、粉塵、直射日光、高温、多湿を受けることがない、風通しの良い乾燥した清潔な場所で保管してください。
- 保管中は完全に乾燥させてから浄水カートリッジ、インナープレス、アウターボトル、キャップを組み合わせ、隙間が無いように閉めてください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。

## ■ 保存期間

- 浄水カートリッジの寿命は未開封状態で約 10 年間、初回使用時から 3 年間です。

## ■ 廃棄方法

- 廃棄方法はお住まいの自治体の収集方法に従ってください。

## ■ アフターサービス

お問い合わせいただきました本製品は万全を期して製造しておりますが、万一不備な点がございましたら、お問い合わせいただいた販売店、もしくは下記の弊社窓口までご連絡ください。

製造上の欠陥による不具合の場合は無償で交換させていただきます。なお、修理、交換等の要否につきましては、弊社の裁量にて判断させていただきます。

なお、以下のような原因での破損、不良につきましては保証いたしませんのでご了承ください。

- 本製品の誤った使用方法によるもの
- 間違ったお手入れ、保管方法、経年変化による素材劣化
- 乱暴な取り扱いによるもの
- その他、製造上の欠陥以外の原因によるもの

破損時は弊社にて診断をして、修理が可能な場合はご要望により有償にて修理させていただきます。

## ■ 仕様

品番	1899156
品名	ウルトラプレス ピュリファイヤー
容量	500mL
原料樹脂	アウターボトル、インナープレス、キャップ・・・ポリプロピレン カートリッジ・・・ABS樹脂 パッキン・・・シリコーンゴム
耐熱温度	インナープレス外側ゴム・・・熱可塑性エラストマー アウターボトル、インナープレス、カートリッジ・・・100℃ キャップ・・・130℃
ろ過流量	500mL/10秒(3L/分)※カートリッジ交換目安 300回(150L)
規格	本製品は公衆衛生安全の分野で国際的に認められたNSFによる味、におい、塩素、濁り、有害物質などの除去に関する規格 NSF No.42、No.53 に準拠した試験を行っています。 ※除去率や除去の表現は、上記データをもとに、グレイル社が理論的に適用可能な病原体や物質を推定したものです。すべての個別の病原体や物質に対して試験を行った結果に基づくものではなく、いかなる健康上の安全を保証するものではありません。

## ■ その他

本製品の仕様、デザインは予告なく変更されることがあります。また、重量などのスペックには誤差が生じる場合があります。

# GRAYL®

## 取扱説明書

# ウルトラプレス ピュリファイヤー

### ULTRAPRESS Purifier

この度はお問い合わせいただき、誠にありがとうございます。この取扱説明書（以下「本説明書」といいます）は本製品の正しい取扱方法を説明しています。ご使用前に本説明書をよくお読みいただき、正しい使用方法をご確認ください。

なお、ご不明な点等ございましたら、販売店もしくは(株)モンベル カスタマー・サービスまでお問い合わせください。本説明書は大切に保管してください。

## ■ 特長

本製品は汚れた水を素早く簡単に浄水できる浄水機能付きボトルです。浄水装置とボトルが一体化されており、コンパクトに持ち運ぶことができます。

\*あらゆる汚染水を浄水するものではありません。本説明書に記載の注意事項をよく読み、対象となる汚染水に対してのみ使用してください。

## ■ 各部の名称



## ■ 安全上の注意 必ずお読みください

**警告** 場合により人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。軽傷または物的損害が発生する頻度が高いことが想定される内容です。

- 本製品はいかなる水も処理できる完全な浄水機能を持った仕様ではありません。個人の責任において本製品をご使用ください。(株)モンベルでは本製品の誤った使用に起因する損害や傷害、死亡事故に対していかなる責任を負いません。
- 常に一番きれいで、安全で、最も信頼できる水源をご利用ください。水中に堆積物が多く含まれていると、浄水カートリッジの寿命が短くなります。
- 付属のボトル以外は使用しないでください。本製品に付属のボトル以外を使用した場合は本来の効果を保証できません。
- 浄水カートリッジの使用回数を必ず守ってください。浄水カートリッジの使用回数は水質により異なり、水がきれいな場合は使用回数が多くなり、不純物が多い場合は使用回数が少なくなります。
- 浄水カートリッジの能力が落ちた際は交換してください。浄水カートリッジは押し時間が25秒程度になったら交換時期です。
- 海水では使用しないでください。本製品は淡水にのみ対応します。
- 油または油を含んだ水は使用しないでください。
- 水源に鉱山がある場合や化学物質の流出の影響を受けた水では使用しないでください。高濃度の化学物質、重金属、その他の有害物質が含まれている可能性があり、本製品では対応できません。また、原子力事故、毒性の藍藻に影響を受けた水には対応できません。
- 本製品を凍らせしないでください。浄水カートリッジは最大2回の冷凍と解凍には耐えることができますが、それを超えると浄水能力が弱まります。上記回数を超えた場合は浄水カートリッジを交換してください。
- 二次汚染が発生しないように、インナープレスの内側が汚染水に接触しないように注意してください。万一接触した場合は、お手入れ方法に従って各パーツを洗浄してください。洗浄ができない場合は、浄水を5～7回繰り返して汚染物の濃度を極力下げてください。
- 浄水されたインナープレスの水の二次汚染を防ぐために、浄水後はキャップを確実に閉めてください。
- 浄水後の水は長期保存せずにできるだけ早く使用してください。
- 熱湯や電子レンジを使用しないでください。浄水器の浄化ろ材が破損し、本来の浄水能力が発揮できない恐れがあります。
- 50℃以上の水は使用しないでください。本来の能力が発揮できない恐れがあります。
- 使用前に毎回必ず点検をしてください。老朽化が認められる場合や損傷が認められたり、疑わしい場合には直ちに本製品の使用を中止してください。本来の性能が発揮できない恐れがあります。
- 正しいお手入れ方法、保管方法を守ってください。

**注意** 人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容です。

- 本製品に強い衝撃を与えないでください。破損する恐れがあります。
- 火気を近づけないでください。破損する恐れがあります。
- 本製品の浄水試験は管理された環境の試験室で行っています。実際の使用では試験結果と異なった結果がでる場合があります。

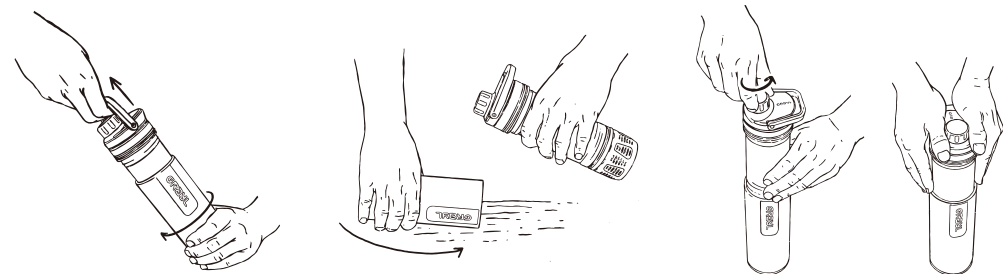
## ■ 使用前の点検 使用にあたっては、毎回必ず次のことを確かめてください。

- 割れや破損がないか  浄水カートリッジの使用回数内か

## ■ 使用方法

**警告** 常に一番きれいで、安全で、最も信頼できる水源をご利用ください。水中に堆積物が多く含まれていると、浄水カートリッジの寿命が短くなります。

### ○ 浄水方法



①キャップのハンドルと、アウターボトルを片手ずつ持ち引き抜きます。ひねりを加えると外しやすくなります。

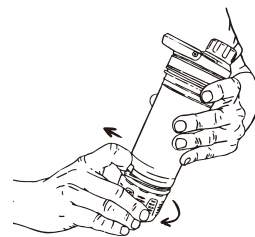
②アウターボトルに浄水する水を入れます。その際外側の線を越えないようにしてください。※堆積物の多い水を使用する場合は布などで濾してから、本製品をご使用ください。

③浄水時の圧力を逃がすために飲み口のキャップを半回転緩め、体重をかけてゆっくりと下に向けて押し込みます。約10秒で浄水が完了します。※実際の浄水にかかる時間は、水質、カートリッジ使用回数、水温、使用者の使い方によって異なります。

※浄水のために一定の圧力が必要です。押し込む際は転倒などに注意してください。  
※不純物の多い水や使用回数が多い浄水カートリッジで浄水をした場合、アウターボトルとインナープレスの隙間から水が漏れる場合があります。その際は時間をかけてゆっくりとインナープレスを押しください。  
※初めて使用する時に、カートリッジ内の活性炭が浄水された水に混じることがあります。活性炭は無害で人体への影響はありませんが、初めて使用される際は、浄水を数回繰り返してからご使用ください。  
※浄水カートリッジの能力が落ちた際は交換してください。浄水カートリッジはインナープレスを押し時間が25秒程度になったら交換時期です。

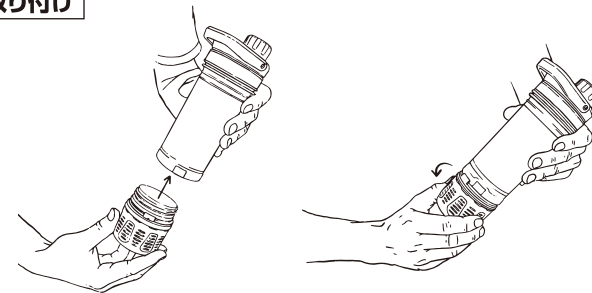
### ○ 浄水カートリッジの取り外しと取り付け方

#### 取り外し



インナープレスの下部にある浄水カートリッジのロックタブを引き出し、時計回りに回して浄水カートリッジを外します。

#### 取り付け



インナープレスをしっかりと持ち、カートリッジをインナープレスの底に取り付けます。

ロックタブがインナープレスの凹みに入りカチッと音がするまで反時計回りに回して締めます。カートリッジがしっかりと取り付けられていないと、二次汚染の恐れがあります。